FLEXSCHE d-MPS 入門ガイド2





d-MPSによるクロール体験

- □ 入門ガイド1ではd-MPSのプロジェクトを作成し、動かしてみるところまでを体験しました。 本ガイドでは計画上の時間を進めながら需要変動に対処していくことにフォーカスしています。
- 口 本ガイド用に準備された既存のプロジェクトデータ使用します。
- □ 本ガイド実施に必要な前提知識:「d-MPS入門ガイド1」を実施済みであること。
- □ それでは、需要変動の荒波に向けて漕ぎ出しましょう!





プロジェクトを確認しよう

FLEXSCHE #3

サンプル集より「d-MPS入門ガイド2」を開いてください。

「d-MPS入門ガイド1」と同じようなマスタデータ、d-MPSのための諸設定済みです。
 月次需要量(見込み)

品目	2021/08	2021/09
А	1500	2200
В	400	1000

- 月次要求量も同値、かつ各日に按分済みです。
- このプロジェクトデータは評価版の制限を超えたデータ量ですが、
 評価版でも利用できる特別仕様です。ただし保存することはできません。
- レコードの追加もできません。



アドインについて

本入門ガイドの進行に必要なアドイン操作はすべてメニューの「スケジュール」-「d-MPSデモ」 に含まれており、オーダー追加や計画基準日時の変更に伴う更新などを自動的に行えます。 本書の進行に沿って案内がありますので、それに従って適宜アドインを実行してください。

本文に沿って操作していただく必要があるアドインは 「●ステップ1~」のように項目名の先頭に●マークが付いているものです。 ^{それ以外の「ステップ5.1~」のようにステップ数が小数になっているメニューは、GUI上で直接データ操作していただくべき内容を自動化したものです。 本書に従って進行している限り基本的には実行する必要はありません。}

「ステップall〜」は進行途中の状況を簡単に復元するためのアドインです。 実行するとステップいくつまでを実施するか指定できます。 データを初期状態に戻した上、指定されたステップまで自動的に実施します。 この入門ガイドを途中まで実施し、後日続きから再開したいときなどに ご活用ください。





需要量の按分について

「d-MPS入門ガイド1」では日々の需要量や要求量には 自動的に按分された値が設定されました。 しかしこれは必ずしも均一化された値が 各日に設定されるわけではありません。

自動按分された値を後から調整することは もちろんですが、自動按分の時点で所定の 偏りを与えることも可能です。

MPSエディタのメニュー[MPSカレンダー設定] を開き、「月次」の内容をご覧ください。



FLEXSCHE

5



MPSカレンダーの需要量設定

見込み需要量の按分 ゼロ期間:「2日」 漸増期間:「3日」となっています。 これは

・向こう2日以内の急な受注は想定しない

・ゼロ期間後も3日間かけて徐々に上昇する

ということを意味します。

需要量について直近への影響を小さくしたいときなどに有効です。







MPSカレンダーの要求量設定

休日でも需要は

なく発生する

R1休日

供給能力係数 各日への要求量の按分値に係数を 与えることができます。 ここで係数名:**稼働日** 資源の カレンダーを参照:R1 となっており、 R1が非稼働な日は係数0と みなされます。

需要係数も同様ですが、 供給能力係数をそのまま適用することもできます。(デフォルト) このプロジェクトデータでは需要は休日に関わらず生じます。

所与月次要求量 このプロジェクトでは月次要求量を直接編集できます。 この場合は月次需要量と自動連動しなくなりますので、 需要量と要求量を完全に分離して運用することを意味します。 ※月次需要量を設定した上で、月次要求量にも明示的に同値を設定、各日に按分してあります。

MPSカレンダー		×
カレンダー名 期間設定 開始日 基準日 期間	月次 タイプ 月 - 日 2021/08/01 ~ 2021/08/01 ~ 2021/08/01 ~ ご計画基準日時に従う 3 ヵ月	 入力の受け入れ □ 日次出荷需要量 □ 日次生産需要量 □ 安全在庫量 ☑ 所与月次要求量
要求量の按約 一需要係数 グ月次需要 一技分元们 MPS生産オージ 供給能力係数 係数名 稼働日	分 数5 反映させる 要量と所与月次需要量の大きい方を按分元値にする 値が変わったときに要求量変動維持按分を自動実行す 数 一前倒し期間の既定値 POS 数 更新方法 資源R1のカレング - 5 参照する	 見込み需要量の抜分 単給能力係数も反映させる ゼロ期間 2 日間 漸増期間 3 日間
林團口 需要係数 係数名	資源K10カレンターを参照9る 更新方法	OK キャンセル

FLEXSCHE #7



確定受注データを入力しよう

現在の需要量は月の総量に基づいて各日に按分したものとなっており、具体的な受注に基づいた値ではありません。 受注情報を登録しましょう。

※このプロジェクトデータは特別な制限解除版なので手動操作によるレコード追加ができません。受注の入力はアドインから行います。

- 1 オーダーデータを確認します。現在の需要量に基づいて自動的に生成された補充オーダーがあります。 フィルタを「MPS出荷オーダー」としてみると受注情報のみに絞り込めます。まだ受注情報がないことを確認してください。
- 2 メニュー「スケジュール」-「d-MPSデモ」-「ステップ1 受注登録1」を実行すると、受注情報が登録されます。



	*オーダー コード	MPS区分	種別	*品目	*数量	製造納期	
1	SM101	CS	S	A	40	2021/08/04 00:00:00	
2	SM102	CS	S	A	50	2021/08/05 00:00:00	
3	SM103	CS	S	A	40	2021/08/07 00:00:00	
4	SM104	CS	S	A	80	2021/08/07 00:00:00	
5	SM105	CS	S	A	30	2021/08/09 00:00:00	
6	SM106	CS	S	A	30	2021/08/10 00:00:00	
7	SM201	CS	S	В	10	2021/08/03 00:00:00	
8	SM202	CS	S	В	30	2021/08/05 00:00:00	
9	SM203	CS	S	В	30	2021/08/06 00:00:00	
10	SM204	CS	S	В	10	2021/08/07 00:00:00	
11	SM205	CS	S	В	10	2021/08/07 00:00:00	



需要量を確認しよう

まず需要量の状況について確認しておきます。 MPSエディタを見ると、受注情報に基づいて日々の需要量の値が 変わっていることが分かります。

「出荷需要量」が先ほどの操作で登録した受注情報です。 当然、出荷需要も日々の需要量に組み込まれますが、 出荷需要が少ない(1500の想定に対して270しか確定していない)うちは、 今後生じるであろう出荷需要に対しても備えねばなりません。 そのために今月の見込みである出荷量1500から 現時点での出荷需要270を差し引いた値を、各日に自動按分しています。

例えば8/5を見ると「83」となっていますが、 これは8/5分として按分計算された値33に、 8/5納期の受注オーダー「SM102」の分50が上乗せされた値です。



FLEXSCHE

#9



結果を確認しよう

要求量(供給要求量)は設定済です。この値通りに供給できるかどうか確認しましょう。

セル背景が赤いのは不足傾向、青いのは過剰傾向を意味します。 濃い赤色については注意が必要で、完全に真っ赤な場合は基準となる値を超過しています。

³ [リスケジュール]ボタンを押して、受注データを反映してください。

※「ステップ1.1(リスケ)」でも実施可

現状では特に注意、対処すべきものは無さそうです。 想定通りの分量が平準化されたペースで 受注するのであればこのままで大丈夫です。 計画の通りに実行することにしましょう。



FI



プロジェクトの計画基準日時を進めよう

プロジェクトの計画基準日時を進めます。 「d-MPS入門ガイド1」ではプロジェクト設定から変更し、さらに凍結期間作業を凍結する操作を行いました。 本書では同様のことをアドインから簡単に行えるようにしてあります。 2021/08 08/02(月) 08/03(火) 08

1 メニュー「スケジュール」ー「d-MPSデモ」ー「ステップ2 8/4」

を実行してください。

このアドインは計画基準日時を進めて、さらに過去となった作業を凍結します。

計画基準日時が8/4に進みます。 過去期間上の作業については凍結されていることが確認できます。

他には各日の需要量の数値が変わりました。 これは8/3までは確定需要以外は按分せず、また8/4以降 についてもゼロ期間/漸増期間が考慮しなおされるためです。

(当初期待していたペースよりも受注が少ないのでしわ寄せとして 未来の需要量が微増しています)





プロジェクトの計画基準日時を進めよう

プロジェクトの計画基準日時をさらに進めます。アドインの動作を確認するために先ほどは作業の凍結処理しかありませんでしたが、 本当ならば時間の経過とともに受注も新たに増えるはずです。

2021/08

- 1 メニュー「スケジュール」ー「d-MPSデモ」ー「ステップ3 8/8」 を実行してください。
 - 受注(オーダー)追加
 - ・ リスケジュール
 - 計画基準日時が8/8に進む •
 - 過去期間作業を凍結 •
 - といった処理が行われます。

各日の需要量が変わりました。品目Aの8/15-18の要求量が真っ赤です。 対処が必要か検討してみましょう。





対処の検討

要求量や供給可能量の赤が目立つ場合は要注意です。

要求量

各日次要求量に対して需要ペースが上回る (①が⑤を超える)と赤になります。 日次需要量は按分された供給ペースのことですから 瞬間的に大きな出荷需要が発生したりすると こういう状態になることがあります。

月初在庫が潤沢であれば対処不要かもしれませんが、品目Aについては 欠品ギリギリの低空飛行状態(供給可能量の赤も濃い)ですし、 もしかするとまだ需要が追加発生する可能性もあります。 増産しておいたほうがよさそうです。

(逆に品目Bには余裕があり、工場のキャパとしてAを増産できる余地があります)

)										Í			
	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		58	58	57	58	58	57		58	58	57	58	58
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	96	96	74	92	79	57	25	-8	-118	-150	-132	-115	-97
			100		100	100			100		100		100
	350	350	270	330	260	280	290	200	90	100	60	120	80
		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1
		80	40	70	80	90	90	110	90	40	40	40	40
		80	30	50	50	50	50	70	50				





要求量を調整しよう

品目Aの8/9-8/14までの要求量を増やして再計画します。

•8/9-8/14までの要求量を「100」とします

・8/16以降の要求量を再按分します

・リスケジュールします

※「ステップ3.1(要求量調整とリスケ)」で自動実施可

品目A,Bともひとまずはこれで大丈夫そうです。

※今回はこのまま進行できますが、場合によっては工場の負荷に 無理が生じます。品目Aに注力する分、品目Bは減産するといった バランス調整が必要な場合も考えられます。

累積	◇ Q 横軸スケール		縦軸	スケール			1	F =															
A 2021/	08											20	021/0	9									
								ĪĪ													Ŧ		
WPS/JU	*品目	≥ B#: ∓		000 (: ⊑≱	e or	06	07	00	00	10	11	12	12	14	45	10	17	10	10	20	21
1		2021/08	01	58	57	58	58	57	58	08	100	100	100	100	100	14	15	10	39	18	39	20	21
2		1000		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
3	要求過不足	0	0	0	58	115	133	141	198	96	96	116	176	206	226	236	246	136	86	85	85	84	84
4	生産量	1 400				100		200				100	100	100	100			100		200		100	
5	供給可能量	300	300	300	300	300	360	310	510	350	350	270	330	360	380	390	300	190	200	160	320	280	340
6	- 供給能力係数[稼働日]			1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1
7	需要量	1500				40	50		160		80	40	70	80	90	90	110	90	40	40	40	40	40
8	出荷需要量	680				40	50		160		80	30	50	50	50	50	70	50					
9		0																					
10			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11	⊟-B 要求量	400		15	16	15	16	15	15		16	15	15	16	15	16		15	15	16	15	16	15
12	安全在庫量		50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
13	要求過不足	0	0	0	15	21	36	22	7	2	-8	8	10	18	25	17	11	-12	-10	-7	- 4	-2	2
14	王産重	400		50	1.00	1.0.0	100	50	110			50	117	110	50	100	1.00	0.0	50	100	0.5	50	100
15	一浜結可能重	80	80	80	130	120	120	90	110	90	80	80	117	110	101	128	106	83	10	108	95	82	120
16	一次結能力係数【稼働日】	400		1	10	1	20	1	1	10		10	1	1	1	1	0.0	10	10	12	10	10	10
1/		400			10		30	30	20	10		13	1	9	23	22	23	13	12	13	13	12	13
18	山间而安里	140			10		30	30	20	10		10			10	10	10						
10	生产重要量	0																					

FLEXSCHE # 14



プロジェクトの計画基準日時を進めよう

ではさらにプロジェクトの計画基準日時を進めます。 メニュー「スケジュール」ー「d-MPSデモ」ー「ステップ4 8/15」を実行してください。 ※「ステップ3」と同様、オーダー追加+スケジューリング+計画基準日時更新+過去作業凍結まで行われます。

品目A,Bとも当初の月次需要量に基づいて判断するのであればこのままで問題なさそうです。

月半経過時点で確定需要量が月次需要量に相当迫っています。 業種・製品の特性や営業方針などにもよりますが、 今回は

「Bは当月中にもう少し需要を見込めそうだ」 と判断したいと思います。

MPSカレ	ンダー	月次~(0 8 1	₽	₿ (B 🖄		ŧ																
		*品目	2021/08	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1	🖃 - A	要求量	1500	100	100	100	100		40	39	40	39	40	39		40	40	39	40	39	40		39	40
2	-	安全在庫量						100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
3	-	- 要求過不足	0	186	236	286	336	386	316	306	342	357	388	418	447	386	416	346	374	264	292	272	212	70
4		生産量	1 400	100	100	100			100		200		100				100			100				100
5		供給可能量	300	340	390	440	490	440	370	420	417	592	584	674	664	603	593	583	572	422	511	451	391	210
6		-供給能力係数[稼働日]		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1
7		需要量	1500	50	50	50	50	70	50	3	25	8	10	10	61	10	110	11	150	11	60	60	181	110
8		出荷需要量	1360	50	50	50	50	70	50		20				50		100		140		50	50	170	100
9	-	生産需要量	0																					
10		- 需要係数		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11	⊡ ~ B	要求量	400	15	16	15	16		15	15	16	15	16	15		15	16	15	15	16	15		16	15
12		安全在庫量						50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
13		- 要求過不足	0	13	28	44	49	55	45	50	64	37	-3	7	16	-40	-31	-21	-21	-12	-22	-13	-19	- 9
14		生産量	400			50				50			50					50		50				
15	-	供給可能量	80	120	120	120	160	150	140	130	179	136	81	125	119	63	57	51	86	80	104	98	92	86
16		─供給能力係数[稼働日]		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1
17	-		400			10	10	10	10	1	43	55	6	6	56	6	6	15	6	26	6	6	6	6
18	-	出荷需要量	320			10	10	10	10		40	50			50			10		20				
19	-	生産需要量	2																					
20		需要係数		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

FLEXSCHE # 15





1. 品目Bの月次要求量を500に変更してください

日々の要求量合計値400と乖離するので()にて併記されます。

2. 月次要求量を再按分してください

要求量総量が500となるよう16日以降が按分しなおされ、()併記状態が解消します。

3. リスケジュールしてください

供給可能量は前回のリスケジュール結果に基づいた値ですから、要求量が変わったならリスケジュールが必要です。 ※上記1.2.3.は「d-MPSデモ#ステップ4.1(B要求量500、按分、リスケ)」で自動実施可

		*品目	2021/08	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1	+- A	要求量	1500	100	100	100		40	39	40	39	40	39		40	40	39	40	39	40		39	40
11	- B	要求量	500	16	15	16		23	22	22	23	22	23		22	23	22	23	22	23		22	23
12		安全在庫量					50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
13		要求過不足	0	28	44	49	55	45	58	79	58	26	42	59	3	19	36	43	60	56	73	67	83
14		生産量	500		50				50		50	50				50		50				50	
15		供給可能量	80	120	120	160	150	1 40	130	179	136	131	175	169	113	107	151	136	180	154	148	142	186
16		供給能力係数[稼働日]		1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1
17			400		10	10	10	10	1	43	55	6	6	56	6	6	15	6	26	6	6	6	6
18			320		10	10	10	10		40	50			50			10		20				
19		生産需要量	0																				
20				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1



プロジェクトの計画基準日時を進めよう

プロジェクトの計画基準日時を進めます。メニュー「スケジュール」--「d-MPSデモ」--「ステップ5 8/22」を実行してください。 「ステップ4」と同様、オーダー追加等が行われます。

品目Bについてはこれまでと同様のペースで受注が入っています。確定需要(受注)だけで450に到達していますので、 先週時点で増産をかけて正解でした。

品目Aも期待通りのペースで進行できそうです。また、そろそろ翌月分のオーダーもいくつか入ってきていることが分かります。

		*品目	2021/08	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2021/09	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
1	Δ	1 亜水量	1500	40	39	40	39		40	40	39	40	39	40	2.5	39	40	2200	85	84	85	84		85	85	84	85	85	84	
י ר		安全大庫量	1000	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	2200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	1.0.0	100	100
2				2.45	205	40.4	444	400	400	470	410	440	201	200	200	000	7.4		100	00	00	100	- CC	100	100	100	- TOO	110	01	71
3		安水迥个正	U	345	365	404	444	483	433	473	410	442	331	356	333	269	74	U	U	22	22	44	55	-9	13	15	-5	-113	-91	-11
4		生産量	1 400	200		100				100			100				100	2100	100	100	200			100		100	100	200		
5		供給可能量	300	420	600	600	700	700	650	650	647	640	489	575	512	448	214	200	200	237	253	390	317	253	290	207	203	110	247	183
6		供給能力係数[稼働日]		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	
7			1500	20				50		103	7	151	14	63	64	234	114	2200	60	01	00	70	01	- 00	- 00	101	100	- 00	1 4	63
8			1410	20				50		100		140		50	50	220	100	300		20		10			20	40	130			
9		生産需要量	0															0	-						_	_				
10				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11	⊟- B	要求量	500	22	23	22	23		22	23	22	23	22	23		22	23	1000	38	39	38	39		38	39	38	39	38	39	
12		安全在庫量						50	50	50	50	50	50	50	50	50	50		50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
13		要求過不足	0	80	62	35	57	80	30	52	75	87	90	92	65	5	27	50	50	55	57	62	59	26	32	38	44	50	51	57
14		生産量	550		50	50				50		50				50	50	950		100	50			50		50	50	50		
15		一供給可能量	80	180	140	140	190	190	140	1 40	190	180	210	190	140	80	130	180	180	147	210	227	185	152	170	137	155	172	185	152
16		供給能力係数[稼働 <mark>日]</mark>		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	
17			400(450)	40	50			50			10	20	20	50	60			1000	30	27	20	12	20	22	20	22	20	27	<mark>- 1</mark> 3	32
18			450	40	50			50			10	20	20	50	60			25		5		10						5		
19		生産需要量	0															0	-		_								-	
20				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

ここで、品目Aについて特急オーダーの相談が舞い込みました。

受注しても大丈夫なのか?FLEXSCHEに登録してシミュレーションしてみましょう。





特急オーダーに求	対処しよう
----------	-------

以下のオーダーを追加します。
「d-MPSデモ#ステップ5.1
(特急オーダー追加)」を実行してください。

品

目

А

数量

550

納期

2021/8/28

		•	•	•				-							· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
											要求量の	再按分		Ctr	rl+Q		
_										_	月末まで要	要求量を再	按分	Ct	rl+E		
		*品目	2021/08	18	19	20	21	22	23	2	要求量の	変動維持指 ^{要式量を変}	好 動維持按/	Cti	rl+A rl+D	30	31
	1	 A 要求量	1500	40	39	40	39		40	40	39	4N	39	40		39	40
	· ·																
	2	安全在庫量					100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	3	要求過不足	03	345	365	404	444	483	433	473	413	452	352	391	-169	-219	-400
	4	生産量	1 400	200		100				100			100				100
	5	一供給可能量	300 <mark>)</mark>	420	600	600	700	700	650	650	650	650	510	610	10	- 40	-260
	6	- 供給能力係数[稼働日]		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1
	7	需要量	1500(1960)	20				50		100		140		600	50	220	100
	8	出荷需要量	1960	20				50		100		140		600	50	220	100

切り取り(T) コピー(C) 貼り付け(P) 値の貼り付け(V) クリア(R) 元の値に戻す(N)

ESC

欠品が生じることになっています。

MPS

区分

CS

コード

SP001

このオーダーに応えることはできても、それのせいで別のオーダー(30,31日)に供給が間に合わない事態になっています。

22日から増産シミュレートしてみましょう。

・月次要求量を2000に設定してください(需要量増加に対応させるため。MPSカレンダーは月次要求量は需要に連動しない設定となっている。)

・22日~月末まで要求量を再按分してください

・リスケジュールしてください

※「d-MPSデモ#ステップ5.2(A要求量2000、按分、リスケ)」で自動実施可

しかしながら状況は改善しません。 既存在庫を吐き出しつつ増産しても間に合わないので、 このオーダーを受けるのはどうやら無理そうです。

		*品目	2021/08	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1		A 要求量	2000	40	39	40	39	40	39		102	102	102	102	103	102		102	102
2	2	安全在庫量								100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
з	3	要求過不足	0	316	306	345	365	404	444	483	433	535	537	639	601	704	206	156	38
4	1	生産量	1700	100		200		100					100	100	200			100	100
5	5	供給可能量	300	370	420	420	600	600	700	700	650	650	550	650	610	810	211	160	40
e	5	供給能力係数[稼働日]		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		-	- 1
7	7	需要量	1500(1960)	50		20				50		100		140		600	50	220	100
8	3		1960	50		20				50		100		140		600	50	220	100
9	9	生産需要量	0																
10)	需要係数		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

このオーダーの納期を1週間遅らせるのであればどうでしょう?再度調整してみましょう。

FLEXSCHE# 18

特急オーダーに対処しよう

以下のオーダーの納期を変更してください。

コード	納期
SP001	2021/8/28→2021/9/4

※「d-MPSデモ#ステップ5.3(納期変更)」で自動実施可

今月については不足なし(むしろ過剰生産。当初1500予定だったものを2000作ることに)。 翌月については9/4に大口出荷したあとも供給可能量140(増産余力も)あるのでこれなら受注できそうです。

		*品目	2021/08	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2021/09	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11
1	⊡ ~ A	要求量	2000	40	39	40	39		102	102	102	102	103	102		102	102	2200	85	84	85	84		85	85	84	85	85	84
2		安全在庫量						100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
3		要求過不足	0	345	365	404	444	483	433	535	534	629	580	669	708	644	512	500	500	540	559	599	78	33	73	93	92	2	- 42
4		生産量	1700	200		100					100	100	200			100	100	2300	100	100	200			100		100	100	200	
5		供給可能量	300	420	600	600	700	700	650	650	547	640	589	775	712	648	514	500	500	555	590	745	140	95	150	85	100	25	180
6		供給能力係数[稼働日]		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1		1	1	1	1		1	1	1	- 1	1	
7			1500	20				50		103	7	151	14	63	64	234	114	2200	45	65	45	605	45	45	65	85	175	45	45
8			1410	20				50		100		1 40		50	50	220	100	850		20		560			20	40	130		
9		生産需要量	0															0											

9/9に欠品(100-175でマイナス)が生じますが、月初にも増産できるのでカバーできそうです。



受注するのであれば、8月中の過剰生産は、当然今回の特急オーダーに対する備えですので、ここは過剰のままにします。 キャンセル(オーダー削除)される場合は、8月の要求量を1500に戻し、22日以降を再按分しなおしてリスケジュールすれば、 過剰生産は解消します。今回は納期変更してこのまま受注したものとします。



特急オーダーに対処しよう

月初の増産調整をします。 ・9/1-9/4までの要求量を「100」とします 切り取り(T) ・9/5以降の要求量を再按分します コピー(C) 貼り付け(P) リスケジュールします 値の貼り付け(V) クリア(R) ※「ステップ5.4(翌月調整)」で自動実施可 元の値に戻す(N) ESC 要求量の再按分 Ctrl+O Ctrl+E 月末まで要求量を再按分 要求量の変動維持按分 Ctrl+A *品目 01 02 03 04 05 2021/08 2021/09 要求量を変動維持按分 Ctrl+D 1 - A | 要求量 102 102 -39 102 103 102 102 102 安全在庫量 要求過不足 Π - 4 生産量 100 100 200 供給可能量 Ξ 供給能力係数[稼働日] 11 5 2021/09 需要量 100 出荷需要量 生産需要量 9/9の問題に対処できました。



要求過不足の翌月への持越しについて

品目A、9月の情報をご覧ください。

月次要求量:2200

要求過不足:500

先月から引き継いだ余剰在庫500を持ったまま、月産2200を目指すことを意味します。 (※今回の余剰は意図的なものなので月産2200のままでOK) これは、MPSカレンダー設定で所与月次要求量の「入力の受け入れ」を 有効にしているため、このような状態になります。

デフォルトは「入力の受け入れ」無効です。その状態で ここまで手順を進めた場合、右図のような状態になります。 カッコ表記されている1700というのは目標量(=製造すべき量)です。 需要量2200に対し、前月から500持ちこしてくるので、 当月の製造目標は1700でよい、と判断されているわけです。 ※日次要求量を再按分すると1700に対して按分されます

2021/00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10
2200	100	100	100	100		82	82	81	82	82
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
500	500	555	590	645	140	95	132	149	1 45	52
2300	100	100	200			100	100	100	100	100
500	500	555	590	745	140	95	150	105	200	195 L-b
	1	1	1	1		1	1		の文けノ	VII —
2200	45	65	45	605	45	45	65		日次出宿	可需要重
850		20		560			20		日次生産	E需要重
0									安全在廬	重 重
	1	1	1	1	1	1	1		所与月次	聖求要求
	2021/00 2200 500 2300 500 2200 850 0	2021/00 01 2200 100 200 500 2300 100 2300 100 2300 500 2300 500 2000 500 2000 45 850 1 0 1 100 1	2021/00 01 02 2200 100 100 200 500 555 2300 100 100 2300 100 100 2300 100 100 500 555 100 500 500 555 600 45 65 850 45 65 850 45 20 600 10 10	2021/09 01 02 03 2200 100 100 100 2200 100 100 100 500 555 590 2300 100 100 200 2300 100 555 590 2300 500 555 590 2000 500 555 590 2000 500 555 590 2000 500 505 590 2000 500 555 590 2001 500 500 500 500 500 500 500 500 500 500 500 600 10 10 10 600 10 200 100 600 10 10 10 600 10 10 10	2021/00 01 02 03 04 2200 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 500 555 590 645 2300 100 100 200 645 2300 100 555 590 745 500 550 550 745 605 41 1 1 1 2200 45 655 590 560 605 555 590 560 560 605 45 605 560 560 605 65 605 560 560 605 605 605 560 560 605 605 605 605 605 605 605 605 605 605 605 605 605 605 605 605 605 605 605	2021/00 01 02 03 04 05 2200 100 100 100 100 100 2200 100 100 100 100 100 100 100 500 555 590 645 140 2300 100 100 200 745 140 2300 500 555 590 745 140 2300 500 555 590 745 140 2300 500 555 590 745 140 200 455 655 590 745 140 100 200 100 100 100 100 100 500 555 590 745 140 100 450 655 455 605 455 100 10 10 10 10 10	2021/00010203040506220010010010010010082100100100100100100100100500500555590645140952300100100200100100100500555590745140956005005555907451409560050055559074514095600500555590745140956005005555907451409560050055559064545545560045605455605455455600645605560645605455600645605560645605455600645605645605140605600645605645605645605600645605645605645605600645605605605605605600645605605605605605600645605605605605605600645605605605605605600645605605605605605	2021/00010203040506072200100100100100100828210010010010010010010010050055559064514095132230010010020064514095150230050055559074514095150500555590745140951505005555907451409515050055559074514095150500550550590745140951505005005555906054556054565560545560545605456552020605605605560560560560560560560605 <t< td=""><td>2021/00 01 02 03 04 05 06 07 08 2200 100 100 100 100 100 100 82 82 81 2200 100 100</td><td>2021/00 01 02 03 04 05 06 07 08 09 2200 100 100 100 100 100 100 82 82 81 82 2200 100</td></t<>	2021/00 01 02 03 04 05 06 07 08 2200 100 100 100 100 100 100 82 82 81 2200 100	2021/00 01 02 03 04 05 06 07 08 09 2200 100 100 100 100 100 100 82 82 81 82 2200 100





特急オーダーの需要量への影響について

品目A、9月の情報をご覧ください。

- 月次需要量:2200
- 出荷需要量:850
- 特に変更していないので当初の予定通り需要量は2200のままです。
- 特急オーダーを9月納期として組み込んだためこの時点で9月納期の受注総量が すでに850に達しています。
- 日次需要量には未確定分に対する按分値が含まれていますが、
- その値はすでに随分小さくなっています。
- (すべて未確定の場合は2200/稼働日数26=84)

製造予定に合わせるのであれば需要量を調整することができますが、 需要量は直接的に計画に影響を及ぼすわけではないので調整せずとも構いません。

需要量を変更せずに運用を続けると、日次需要量の見込み精度が落ちる可能性がありますが、 当初見込んだ需要量と、実際の需要量との乖離を観察できるというメリットもあります。

この入門ガイドでは需要量を調整せずに進めていくこととします。

2021/09	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10
2200	100	100	100	100		82	82	81	82	82
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
500	500	555	590	645	140	95	132	149	145	52
2300	100	100	200			100	100	100	100	100
500	500	555	590	745	140	95	150	185	200	125
	1	1	1	1		1	1	1	1	1
2200	45	65	45	605	45	45	65	85	175	45
850		20		560			20	40	130	
0										
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1



プロジェクトの計画基準日時を進めよう

ではさらにプロジェクトの計画基準日時を進めます。 メニュー「スケジュール」ー「d-MPSデモ」ー「●ステップ6 8/29」を実行してください。 いくらか受注が増えていますが特に注意箇所はなさそうです。このまま来月を迎えることにします。

		*品	2021/08	26	27	28	29	30	31	2021/09	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11
1	- A	要求量	2000	102	103	102		102	102	2200	100	100	100	100		82	82	81	82	82	82
2	-	安全在庫量				100	100	100	100		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
3		要求過不足	0	639	601	704	756	706	588	500	500	579	628	687	186	144	175	195	195	76	116
4		生産量	1700	100	200			100	100	2300	100	100	200			100	100	100	100	100	
5		供給可能量	300	650	610	810	760	710	590	500	500	579	628	787	186	144	193	231	250	149	207
6		供給能力係数[稼働日]		1	1	1		1	1		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1
7			1500	140		50	50	220	190	2200	21	51	41	601	42	51	62	81	201	42	41
8			1410	140		50	50	220	100	990		20		560		10	20	40	160		
9		生産需要量	0							0											
10				1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11	⊒ ~ B	要求量	500	23	22	23		22	23	1000	38	39	38	39		38	39	38	39	38	39
12		安全在庫量		50		50	50	50	50		50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
13		要求過不足	0	87	90	92	65	5	27	30	30	53	65	73	73	3	12	21	30	39	2
14		生産量	550	50				50	50	950	-	100	50			50		50	50	50	
15		供給可能量	80	180	210	190	140	80	130	160	160	1 45	218	238	199	129	150	120	141	161	136
16		供給能力係数[稼働日]		1	1	1		1	1		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1
17			40 (470)	20	20	50	60		20	1000	15	27	30	39	70	29	30	29	30	75	29
18			470	20	20	50	60		20	135		5		10	40					45	
19		生産需要量	0							0											
20				1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

FLEXSCHE # 23

品目Bは見込んだ増産分には若干届かず、30ほど翌月へ繰り越すことになりそうです。

プロジェクトの計画基準日時を進めよう

メニュー「スケジュール」ー「d-MPSデモ」ー「●ステップ7 9/1」を実行してください。 MPSエディタの基準年月(一番左)が9月となり、8月の内容は過去の情報となります。 ちなみに過去の情報は目ボタンで確認できます。

MPSカレ	ンダー	月次 ~ 《	ø 🖬 🗄 🕯	1 क़	£	25 E	寮																								
		*品目	2021/09	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
1	⊡ ~ A	要求量	2200	100	100	100	100		82	82	81	82	82	82		82	82	81	82	82	82		82	81	82	82	82	82		82	81
2		安全在庫量		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
3		要求過不足	590	590	690	770	868	405	401	447	503	538	454	490	566	430	506	352	427	383	458	284	218	84	159	195	141	217	293	287	363
4		生産量	2300	100	100	200			100	100	100	100	100			100	100	100	100	100			100	100	100		200			100	100
5		供給可能量	590	590	690	770	968	405	401	465	539	593	527	581	575	439	533	397	491	465	558	302	236	120	214	268	132	326	320	314	408
6		供給能力係数[稼働日]		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1
7		- 需要量	2200		20	2	563	4	36	26	46	166	46	6	136	6	236	6	126	7	256	66	216	6	46	136	6	6	6	6	6
8		出荷需要量	2040		20		560		30	20	40	160	40		130		230		120		250	60	210		40	130					
9		生産需要量	0																												
10		- 需要係数		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11	- B	要求量	1000	38	39	38	39		38	39	38	39	38	39		38	39	38	38	39	38		39	38	39	38	39	38		39	38
12		安全在庫量		50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
13		要求過不足	30	30	68	102	138	162	115	143	172	181	210	193	223	173	162	191	139	33	62	10	-29	-80	-191	-162	-134	-104	-76	-86	-56
14		生産量	950		100	50			50		50	50	50			50	50	50	50	50			50	50		100	50				50
15		供給可能量	160	160	160	255	303	288	241	281	271	292	332	327	318	268	269	309	269	175	215	125	86	46	-53	-63	27	68	58	48	39
16		-供給能力係数[稼働日]		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1
17		- 需要量	1000		5	2	15	47	10	10	29	10	55	9	50	49	10	90	144	10	90	39	90	149	10	10	9	10	10	9	10
18		出荷需要量	7 45		5		10	40			20		45		40	40		80	135		80	30	80	140							
19		生産需要量	0																												
20		需要係数		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

受注がたくさん入ってきました。中旬から下旬にかけて需要が高く、要求量の調整対応が必要です。





要求量を調整しよう

月の後半に品目Bが足りません。それに間に合うように品目Bの増産を検討します。9/13-9/18までの間の要求量を増やしてみます。

切り取り(T)	1 1 <th1< th=""> <th1< th=""> <th1< th=""></th1<></th1<></th1<>																					
12 13 14 15 16 17 18 19 ⊐Ľ-(C)					12	13 14	15 16	17 1	18 19	20 2 ⁴	1 22	23 2	25									
82 82 81 82 82 82 貼り付け(P)						82 82	81 8	2 82	82	82 8	31 82	82	2 82									
100 100 100 100 100 100 100 100 値の貼り付け(V)						100 100	100 10		100 100	100 1	00 100	100 1	10 100									
566 430 506 352 427 383 458 284 クリア(R)					566	430 506	352 42	7 383 4	458 284	218	84 159	195 1	1 217									
100 100 100 200 元の値に戻す(N)	ESC					100 100	100	200		100 1	00 100	2	10		_				_	_		
491 365 558 302 要求量の再按分	Ctrl+Q 15	16 18 19	20 21 22	23 24	2: 575	439 533	397 49	1 365 5	558 302	236 13	20 214	268 1	326	12 13	14	15 10	6 17	18 19	20	21 22	23	24 25
1 1 1 月末まで要求量を再按分	Ctrl+E 81	82 2 82	82 81 82	82 82	8	1 1	1	1 1	1	1	1 1	1	1 1	82		81 8	82 82	82	82	81 82	2 82	82 8
136 236 6 126 7 256 66 要求量の変動維持按分	Ctrl+A 100) 100 100 100 100	100 100	古ハ	1 136	6 236	6 12	6 7 2	256 66	216	6 46	136	6 6		1 100	050 0		100 100	100	100 100		100 10
130 230 120 250 60 月末まで要求量を変動維	持按分 Ctrl+D 352	2 427 383 458 284	218 8	按分	130	230	12	0 2	250 60	210	40	130		106 430	J 506	352 43	27 383	458 284	218	84 158	9 195	141 21
		200	100 100 107	200										100		100	200	150 00				200
	1 575 439 533 397	49 70	236 120 7	268 132	3: 1	1 1	1	1 1	1 1	1	1 1	1	1 1	4/5 339	433	297 3	91 265	458 20	136	20 114	4 168	32 22
<u>38</u> 39 38 38 39 38 39 38 39 38 39 38	1 1 1	/0		1 1		70 70	70 7	0 70	70	20 1	9 20	19	0 19			1		050 00				
	136 6 236 6	6 126 66	216 6 46	136 6	50	50 50	50 5	0 50	50 50	50 !	50 50	50	i0 50 <u></u>	136 t	5 236	6 1:	26 /	256 61	216	6 4t	6 136	б
223 173 162 191 139 33 62 10 -29 -80 -191 -162 -1	34 130 230	120 250 60	210 / 40	130	223	173 194	254 23	4 160 2	220 200	161 !	91 -39	-29 -	20 -9	130	230	13	20	250 61	210	41	0 130	
50 50 50 50 50 50 50 50 100	50					50 50	50 5	0 50		50 !	50	100	i0 —			1						_
<u>318 268 269 309 269 175 215 125 86 46 -53 -63</u>	27	1	1 1	1 1	318 :	268 269	309 26	9 175 2	215 125	86 -	46 -53	-63	7 68	1 1		1	1 1	70		1 0		1
		60 60 60	26 25 26	25 26	2	1 1	1	1 1	1	1	1 1	1	1 1	50 50	J 7U	50 1		70 50 50	201	19 ZU	U 19	ZU 1
	9	<mark>, au au au </mark> 50	90 50 50	50 50	50	49 10	90 14	4 10	90 39	90 1-	49 10	10	9 10	50 50	J 50	05.4 0	50 50	000 000	50	50 50	0 50	50 3
	223 173 184 234	4 204 120 170 140	101 37 -87	-71 -56	-39 -	<u>т ць</u> в		- 1				-		223 173	5 194	Z54 Z	34 IBU	220 200	101	91 -39	9 -29	-20 -
「「」「	50 50 50) 50 50	50 50	100 50		そ不す	重は	_n`	で大	又天	そこ	つです		110 200	0 20	30 I: 400 20	00 075	205 270	206	100 4	7 07	77 11
	318 268 269 309	269 175 215 125	86 46 -53	-63 27	68		- 41	×+ 18		. ~ ~				+10 300	0 008	408 31	1 1	1	230	1 1	1 1	1
60にして20日以降を按分	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1	ーラ	ミ 除し	、	宣か	间に	- 谷つ)U)T.	い、		E0 40		00 1	44 10	00 20	1 00	1.40 1	1 1 0 10	-
	50 49 10 90) 144 10 90 39	90 149 10	10 9	10				1 -	- T+-=	<u>रा।</u> –	+-+-		30 48	9 10	90 I-	44 10	30 31	90	149 10	0 10	9
してみてください。					— ',	ノ人フ	「ンユ	.ール	/し (.惟鄙	ざしる	ち ター	0									\$
	翌调の要	求量まだ赤	いまま	なので	×	:「ステ	ップ7.2	(B要求	き量70.	按分.	リスク	-) (にき	≥ ð:	品目	ΞBO	の間	1)段に	「解シ	肖しる	まし	たか	۱ <u>.</u>
※「人丁ツノ1.1(B要水重60、按分)」で日期美他中					· · ·		/////		· <u> </u>			11-1	10					. 41. 1				•
	60で製造	してもまだ。	小足です	Γ.										品目	IAE	こ火	品初	1.思り	こ!			
				<u> </u>																		
	今度は70	にして按分	してみる	ます。																		
	※「ステップァク)(B亜		で白動室	協司																	
	ホーヘノツノルム			し日刻天	ne ⊨]																	
			1	7 – 1		د ر عدر	·	-	_		. 4.1.	<u>а</u> ,	· · ·		.							
。 このブロジェクト	テータでは、	品目AとB	とで共通	前の生	産設	値が	ある	ので	<u> </u>)製:	() () ()	注力	しよ	こうと	こした	ことき	5				
			~		+~	2 m			•									•				

FLEXSCHE # 25

もう一方の製造に影響を及ぼす関係性となっています。どういう状況なのか分析してみます。

要求量を調整しよう

チャートを確認してみましょう。

各工程の利用設備は以下 R1:品目Aの前工程 R2:品目Bの前工程

R3:両品目の後工程

実はR1はすでに稼働率が高くなっています。 品目B増産 = R3負荷増となったとき、 R1にまで影響が及んでしまうと品目Aの 供給見込みが変わりやすい状態です。



各週、各資源の負荷の状況から増産の余地を考えてみます。 品目Bの製造にあたってはR2、R3を利用するわけですが、前工程を担当するR2には全体的にまだ余力があります。 となると着目すべきはR3の負荷状態です。R3については9/6-9/10の週、あるいはその前週にも余力があることが分かります。 品目Bに関する作業(オレンジ色)の負荷が9/13の週の品目Aの作業(水色)に影響したことが原因なので、 オレンジ色の作業を前倒しすれば状況を改善できるかもしれません。







ルール「計画前倒し」を実行してください。

要求量の状態はそのままで、 作業を前倒しするように計画を変更、 いずれの品目も欠品を回避できました。

												*5	3日 日	E	2021/09 9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
											1 🖃	A 要求量			2200 <mark>32</mark>	82	82		82	82	81	82	82	82		82	81	82	82	82
											2	一安全在庫	ī重		00	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
											3	- 要求過不	下足		590 38	454	490	566	430	506	352	427	383	458	284	218	84	159	195	141
											4	一生産量			2300 00	100			100	100		200	100			100	100	200	100	100
											5	一供給可能	量		590 <mark>9</mark> 3	527	581	575	439	533	397	391	465	558	302	236	120	214	368	332
											6	- 供給能力]係数[稼働	81	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1
											7				2200 66	46	6	136	6	236	6	126	7	256	66	216	6	46	136	6
			10.0								8	出荷需要	重		204060	40		130		230		120		250	60	210		40	130	
1		09,	/02	09/03	09/0	14	09/05	09706	09707	09,	9	生産需要	重		0															
	j,	8	16	8 16	8 1	б	8 16	8 16	8 16	8	10	- 需要係数	र		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	00	000 <mark>2</mark>			00024			A Ø O		0023	11 🖃	B 要求量			1000 <mark>39</mark>	38	39		70	70	70	70	70	70		20	19	20	19	20
	Ľ		d 🗖	1				- 1 i			12	安全在庫	重		50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
	F										13	- 要求過不	足		30 81	210	193	223	173	194	254	234	160	220	200	161	91	-39	-29	-20
1											14	生産量			950 50	50			50	50	150		50			50		50		50
		10	0%	100%				100%	100%	10	15	一供給可能	量		160 <mark>42</mark>	482	477	468	418	419	459	519	375	415	325	286	246	97	137	127
n											16	一供給能力]係数[稼働	81	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1
	000	00 <mark>B</mark>	BBec	100 <mark>0 B1</mark> Be	000016			BIBE	0000 <mark>BI B</mark> e	000	17	需要量			1000 10	55	9	50	49	10	90	144	10	90	39	90	149	10	10	9
	þ	P	P PO	PI PO				PI PO	PI P0	F	18	出荷需要	量		745	45		40	40		80	135		80	30	80	140			
1																														
		10	0%	100%				100%	100%	100%	100%	100%			100%	33%	0	8	0%		0%					0%	0%		0%	
0			lliibaa																								o o b r l			
	3@L 21	100			100023				P P1			SQUUUU <mark>Al B</mark> e 1 - Pi	0000020 1		A 80000	J2 A BUL P P 1	10002	A 80000 P 1	US A B	00000	PI	1033					10085	10000	P P	UUU
	F	-														•••	-			_					_		_	-		
		10	0%	100%				77%	77%	77%	94%	83%			100%	100%	10	0%	100%		34%				1	00%	58%		73%	
0																														
	67	0	770	8 <u>6</u> 8 868,	/305	305/3	301 2	6 <u>536</u> 54	39 539	/493 59:	3/427 5	27 <u>/</u> 481 5 <u>8</u> 1 5	575 575/	439	433 533 297	397	391	265	465	45.8	558 3	0,2	302/2	36	20	120 11	4214	2	68 36	8/2
500	Ľ		<u> </u>		ľ.	v		V 7	<u> </u>	v	× -		Y Y	<u></u>	V V V	7		Y	7	Y	7	ľ.	v		Y .	7 7	· 7		7	v
0							,	· · · ·		•	•	V							_											-
	15	5.20	5 20	3 303 33	38	338/2	291 291	/281 2	71 321	292/342	32 432	427 473	/468 468/	418	369/419 40	9/459	369 51	9 375		365.4	15 3	25	325/2	86 29	36/196	246.9	7	87	137	127
400	1.3	7	7		Y	Ý.	201	<	ý 7 .		Y 7	<u>.</u>	V 100			¥.00				- V	7		V.		7	÷ ,	;	1	7	. Y
200			_		_									_		_	-					_			-		_		_	-

この「計画前倒し」ルールはこれまで利用してきたd-MPS用標準ルールとメソッド構成は同じです。 「フォワード再割付けメソッド」の設定内容のみ異なっておりデフォルト設定ままなので、すべての資源の作業を 一様に前倒ししています。実際は、局所的に前倒しするような設定が必要かもしれません。







増産の意思表示である日次要求量の 与え方を工夫することでも改善を 期待できます。 興味がありましたらお試しください。

前倒しと同様の効果を狙って 9/6-11の要求量60、 9/13-18の要求量50 とします。要求量変更後はもちろん

20日以降を按分、

リスケジュール も必要です。

ひとって、 く 9 。 ※「ステップ7.4(B要求量前倒しバランス、按分、リスケ)」 で自動実施可

デフォルトルールでも 欠品を回避できていることが分かります。



にて前項の状態に戻せます。

		*品	目	2021/09	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	切り	取り(T)					
1	A	│日要习	专量	2200)		82	82	81	82	82	82		82	82	81	82	82	82		82	81	82	שלי	-(C)					
2		安全7	午庫量]	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	101	貼り	付け(P)					
3			—————————————————————————————————————	590 3	405	401	447	503	538	454	490	566	430	506	352	427	383	458	284	218	84	159	値の)貼り付)(V)				
4	_		₽	2200		100	100	100	100	100			100	100	100		200			100	100	100	クリ	ፖ(R)					
5	_		 可能量	590 8	305	301	365	439	493	427	481	475	339	433	297	391	285	458	202	136	20	11.	元の)値に戻	す(N)			F	ESC
6	_	一供給貨	: 能力係			1	1	1			20		1	1	1		50			1	1		要求	₹量の再	按分			Ctrl	+Q
7			₽	22003	4	36	26	46	16h		50	156	6	236	6	120	_ 30)	66	216	6	1	月末	まで要	求量を	转分		Ctr	I+E
8			- 需要量	2040)		30	20	40	160	1		130	-	230		120		250	60	210	-	41	要求	≷量の変	動維持	按分		Ctrl	+A
9			需要量	0																		-	月才	そりよれ	求重を多	と動雑門	班分	Ctrl	+D
10					1	1	1	1	1	-/1	1	1	1	- 1	1	1	1.	- 1	1	1	1	1	1	1					
11	B	要3	量	1000 }		38	39	38	39	38	39		70	70	70	70	70	70		20	19	20	19	20	19				
12		安全7	生庫量	D	50	50	50	50	50	50	50	50	50	501	50	501	50	50	50	-00	50	50	50	50	5(
13		要求i	過不足	30 3	162	115	143	172	181	210	193	223	173	194	254	234	160	220	200	161	91	-39	-29	-20	- 9				
14		生産	₹	950		50		50	100	100			50	50	50	150				50		50		50					
15	ŀ	供給す	可能量	160 3	288	2.41	281	271	292	382	427	418	368	369	409	369	375	365	275	236	196	47	87	77	118				
16		供給育	能力係	l		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1					
17		需要	-	1000-		- • • •			- 10				- 40	- 10								• •			- 1		_		
18	ŀ	出荷		*品目	2	021/09		06 0	07 0	8 0	9 10	0 11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28 2
			1 🗗 /	4 要求量		22	200	82	82	81	82 8	32 8	2	82	82	81	82	82	82		82	81	82	82	82	82		82	81
			2	安全在庫量				100 1	00 1	00 1	00 11	00 10	0 10	0 100) 100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100 1
			3	要求過不足		5	590	401 4	47 5	03 5	38 4	54 49	0 56	6 430) 506	352	427	383	458	284	218	84	159	195	141	217	293	287	363 4
			4	生産量		23	300	100 1	00 1	00 1	00 11	00		100) 100	100		200			100	100	100		200			100	100 1
		_	5	一供給可能量		5	590	401 4	65 5	39 5	93 5:	27 58	1 57	5 439	9 533	397	491	365	558	32	236	20	214	268	132	326	320	314	408 5
		_	6	一供給能力係	•			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		-	1	1	1	1	1	-	1	1
		_	7	一需要重		22	200	36	26	46 1	66 4	46 40	6 13	i t	5 236	i b	126	1	256	66	216	б	46	136	6	б	6	6	б
			8	山何需安里	_	21	J4U 0	30	20	40 1	6U ·	40	13	J	230	·	120		250	60	210		40	130					
			9	二 上 庄 而 安 里			U	1	1	1	1	1	1	1 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0			11	一 西女 你 奴 2 西 求 骨		10	00	60	1 60	1 6.0	1 60 6	1 6	י ח	50	50	50	50	50	50		10	1.8	10	18	10	10	1	18	10
			12	- 安尔里 - 安全在庫量		10		50	50	50	50 9	50 5	0 5	1 50	1 50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
			12				30	115 1	65 2	15 2	46 21	96 30	1 35	2 302	2 303	343	303	209	249	209	170	99	-32	-23	-15	-5	4	-6	3
			14			9	350	50 1	00	50	50 11	00		50) 50	50	100	50					50		50				50
			15			1	160	241 2	81 3	71 3	92 4:	32 47	7 46	B 418	3 419	459	419	375	415	325	286	196	47	87	77	118	108	98	89
			16	一供給能力係				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1
ار(<mark>ااا</mark>			17	需要量		10	100	10	10	29	10 !	55	9 5	0 49	9 10	90	144	10	90	39	90	149	10	10	9	10	10	9	10
			18	出荷需要量		-	745			20		45	4	0 40)	80	135		80	30	80	140							



プロジェクトの計画基準日時を進めよう

さらに1週間進めます。メニュー「スケジュール」-「d-MPSデモ」-「

ステップ8 9/8」を実行してください。

MPSカレ	ンダ・	- 月次 ~ く	≶ ≣ ≣ ≭	╡ ि	r 🗗	15	*																				
		*品目	2021/09	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1	⊡ … (↓│要求量	2200	82	81	82	82	82		82	82	81	82	82	82		82	81	82	82	82	82		82	81	82	82
2		安全在庫量		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
3		- 要求過不足	590	462	524	565	487	529	611	480	562	413	494	455	527	358	298	169	250	291	243	324	366	365	447	477	559
4		生産量	2300	100	100	100	100			100	100	100		200			200	100	100	100	100			100	100	200	
5		一供給可能量	590	380	460	520	460	520	520	389	489	358	458	337	527	276	216	205	305	364	334	433	393	392	492	541	741
6		- 供給能力係数[稼働日]		1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1
7			2200	20	40	160	40		131		231		121	10	251	60	211		41	130	1	40	1		51		51
8			2190	20	40	160	40		130		230		120	10	250	60	210		40	130		40			50		50
9		生産需要量	0																								
10		需要係数		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11	<u>-</u> [3 要求量	1000	60	60	60	60	60		70	70	70	70	70	70		7	6	7	6	7	7		6	7	6	7
12		一安全在庫量		50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
13		- 要求過不足	30	189	249	289	349	363	421	377	403	469	454	385	451	436	402	325	186	169	131	133	126	101	93	76	77
14		生産量	950	100	50	100	150			50	50	50	150							50							
15		一供給可能量	160	305	405	435	535	639	637	593	599	645	610	621	617	532	498	414	269	245	251	246	232	207	193	169	164
16		- 供給能力係数[稼働日]		1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1
17			1000		20		46	2	44	44	4	85	139	4	85	34	84	145	24	44	5	14	25	14	24	5	54
18		一出荷需要量	915		20		45		40	40		80	135		80	30	80	140	20	40		10	20	10	20		50
19		生産需要量	0																								
20		需要係数		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

受注が増えてはいますが、当初の想定通りとするのであればこのままで大丈夫そうです。 確定需要が月次需要にだいぶ迫っていますので、今後の見通しを考え要求量を増やすべきかもしれませんね。



終わりに

いかがでしたか?

d-MPSの効用は単なる需給受給バランス調整に留まりません。 トラブルの可能性を早期に予見して素早く適切に対処できるので、現場の混乱や過剰在庫、 或いは欠品を防ぐことが期待できます。当然、FLEXSCHEでは設備能力に基づいた緻密な計画を立案できますから、 生産可能量を裏付けたり、根拠に基づいた納期回答が可能です。 「製販調整会議」などにおいては製造部門と販売部門を仲立ちするように活用いただけるのではないでしょうか?





FLEXSCHE d-MPS入門ガイド Version 21.1

2022年 10月発行 株式会社フレクシェ 〒140-0001 東京都品川区北品川1-19-5 コーストライン品川ビル2F TEL: 03-6712-9549 FAX: 03-6712-9539 E-Mail: <u>info@flexsche.com</u> URL: <u>http://www.flexsche.com/</u>

本マニュアルの著作権は、株式会社フレクシェにあります。株式会社フレクシェの文書に よる承諾を得ずに、電子的、機械的、光学的またはその他のいかなる形や手段によって も、本書の一部または全部を無断で複製、翻訳、伝送、写本することはできません。

本書の内容は、予告なく変更されることがあります。



